

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

##### 《医療系》

#### ●東京医科歯科大学医歯学総合研究科顎顔面頸部機能再建学系専攻 「歯科医学における基礎・臨床ボーダレス教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本プログラムは全大学院生を対象として実施したが、コース授業は原則として日本語で実施しており、留学生にとっては英語の講義に比べて理解しづらい場合があった。また、10月入学の留学生の場合は日程的にコース授業が受講しづらい場合もあった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

コース授業全てを英語化することは現状では困難であり、コース授業のスライド等は極力英語で作成した。しかし、日本語が不得意な留学生にとっては理解しづらいという意見があった。日程については、コースによって異なる日程となっており、現状では10月入学生に合わせて調整することは困難であり、学生各々のスケジュールに合う講座を履修してもらっている。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

現時点ではコース授業は必修ではなく、他の科目で卒業に必要な単位は取得可能であるため、特に留学生に特化した授業は設けなかった。一方、外国人講師を招聘し、英語によるセミナーを主催することで、日本語を不得意とする留学生に対しても、質の高い講義を提供する場を設けた。

3人指導体制に関しては、留学生に特有のデメリットは特になく、アンケート結果でも好評を得ている。

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### B. 円滑な学位授与の促進

#### ①複数教員による多面的な指導体制の整備

##### 《医療系》

#### ●東京医科歯科大学医歯学総合研究科顎顔面頸部機能再建学系専攻 「歯科医学における基礎・臨床ボーダレス教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

多面的な学生指導および研究の質の向上を目指し、学生と所属専攻が同じ主指導教員1名の他に、分野の異なる教員を2名副指導教員とした複数指導体制を整えた。研究の進捗状況については学生および3名の指導教員で年2回の research progress meeting を実施し、報告書をコースリーダーへ提出することで確認したが、一部で教員の参加意識が低い、教員間の意見が対立し学生が困惑する、という例がみられた。それに伴う問題とも捉えられるが、報告書の提出が遅れるという事例が少なからずあった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

複数指導体制による research progress meeting については、報告書を提出することにより、学生が所属するコースのコースリーダーおよびプログラム・コーディネーターが問題点を抽出して対策を講じることとしていたが、問題点によっては表面化しづらい場合があり、きめ細やかな対応が必要であることが感じられた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

報告書の提出遅れについては、最も多い理由はスケジュール調整が困難なためであると考え、期限に遅れても提出するよう文書等で促すという対応を取った。しかし、中には問題が生じているために meeting に消極的である可能性を考慮する必要があり、その場合には別途対応が必要であった。指導教員の変更は理由によらず可能としており、教員の異動やテーマ変更に伴って指導教員を変更する機会が多いようであったが、問題が起こっていても把握できていない例があったかもしれない。

報告書だけでは把握できない問題点などを抽出しやすくする工夫が必要であり、場合によっては指導教員の組み換えなどの対策が必要であったと思われる。具体的に相談先を決めておくと、容易に問題を洗い出すことができた可能性がある。